

WMS™-Rウエクスラー記憶検査

Wechsler
Memory Scale-Revised

○ 認知症を始めとする種々の疾患の記憶障害を評価するのに有効です。
○ 短期記憶と長期記憶、言語性記憶と非言語性記憶、即時記憶と遅延記憶など、記憶が持つ様々な側面を総合的に測定します。
○ 時間が限られている場合や「遅延再生」指標を必要としない場合は、短縮版（約30分）を行うことができます。

コンプリートセット **90,000円**（税抜き）
（問題冊子などの検査用具一式、検査法 1冊、記録用紙 20名分）

検査法	6,000円（税抜き）
記録用紙（20名分）	10,000円（税抜き）

原 著 者	David Wechsler	原版出版社	Pearson
日本版作成	杉下 守弘	適 用 範 囲	16歳～74歳
実 施 時 間	45分～60分	医科診療報酬点数	450点（根拠 D285-3）

日本文化科学社

日本版ウエクスラー記憶検査は、NCS Pearson, Inc. との契約に基づいて作成されたものです。

13の下位検査

WMS-Rは、言語を使った問題と図形を使った問題とで構成され、13の下位検査があります。

○ 検査バッテリーを構成する各下位検査に先立ち、全般的な精神状態を把握するために用いられることの多い質問を含んだ下位検査を実施します。

1.情報と見当識	被検者本人に関すること、見当識、および長期記憶から引き出される一般的な知識などの簡単な質問からできている。指標算出には用いられないが、全般的な精神状態を把握できるのでスクリーニングとして有効。

○ 次に、８つの下位検査を実施します。言語と図形の材料の両方について、短期学習とその再生が測定されます。

2.精神統制	日常接している数字や文字の系列を繰り返す。
3.図形の記憶	抽象的な模様を短時間見て、その後に多くの模様の中から記憶した模様を識別する。
4.論理的記憶Ⅰ	検査者が読む短い物語を聞き、その後に内容を思い出しながら話す。
5.視覚性対連合Ⅰ	それぞれ異なった図形と色の対を見て、その後に提示された図形と対になっていた色を指さす。
6.言語性対連合Ⅰ	一群8つの単語の対が読まれ、その後に読み上げられた単語を聞いて対のもう一方を言う。
7.視覚性再生Ⅰ	幾何学図形を見た後、記憶を頼りにそれを描く。
8.数唱	検査者が読み上げた数字を同じ順に繰り返す順唱と、読み上げられた順と逆の順に繰り返す逆唱からなる。
9.視覚性記憶範囲	検査者がカード上の四角形に順番に触れるのを見て、同じ順序で触れる課題と、逆の順序で触れる課題からなる。「数唱」課題の視空間性対等物である。

○ ８つの下位検査の後すぐに、遅延再生のために４つの下位検査を行います。この４つの遅延再生検査を省いて、WMS-Rの短縮版とすることもできます。

10.論理的記憶Ⅱ	先に実施した論理的記憶Ⅰの物語を思い出して話す。
11.視覚性対連合Ⅱ	先に実施した視覚性対連合Ⅰの図形を見て、それと対になっていた色を指さす。
12.言語性対連合Ⅱ	先に実施した言語性対連合Ⅰで読み上げた単語の対の一方を聞き、それと対になっていた単語を言う。
13.視覚性再生Ⅱ	先に実施した視覚性再生Ⅰの図形を記憶を頼りに描く。

５つの指標

下位検査の結果から5つの指標を求めることができます。

○ ８つの下位検査から「一般的記憶」と「注意／集中力」という２つの主要な合成得点が得られます。「一般的記憶」は「言語性記憶」と「視覚性記憶」を測定する２つの下位得点に細分化されます。そして、４つの遅延再生検査からは「遅延再生」の合成得点が得られます。これらの合成得点を、標準化された指標得点に換算します。

一般的記憶	言語性記憶	4.論理的記憶Ⅰ／6.言語性対連合Ⅰ
	視覚性記憶	3.図形の記憶／5.視覚性対連合Ⅰ／7.視覚性再生Ⅰ
注意／集中力		2.精神統制／8.数唱／9.視覚性記憶範囲
遅延再生		10.論理的記憶Ⅱ／11.視覚性対連合Ⅱ／12.言語性対連合Ⅱ／13.視覚性再生Ⅱ

臨床・研究への活用

５つの指標得点への換算だけでなく、パーセンタイル値への換算表（数唱、視覚性記憶範囲、論理的記憶Ⅰ・Ⅱ、視覚性再生Ⅰ・Ⅱ）も掲載されています。また、指標間の有意な差を求める表、教育水準ごとの指標の平均値が分かる表、日本版WMS-Rと米国版WMS-Rの結果を比較した表などの各種資料が検査法に掲載されており、結果の解釈にお役立ていただけます。

日本文化科学社